令和５年度　厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書(非専門医連携対策)

肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状(続報)

研究分担者：榎本　大　　大阪公立大学大学院医学研究科　　肝胆膵病態内科学

研究要旨：肝炎医療コーディネーター（肝 Co）は自治体や肝疾患診療連携拠点病院（拠点病院）により養成され、肝炎対策のさまざまな場面で活躍することが期待されている。我々の行った 2019 年の調査（**第 1 報**）によると、肝 Co の活動状況には施設によってばらつきがあった。**第 2 報**として、2021 年度の拠点病院 72 施設のうち、21 施設の肝 Co の現状を調査したところ、合計 951 人の肝 Co が養成されていた。前回調査にも参加した 17 施設では、全体の実働率は 2019 年度の 84.2%から 85.8%と微増していた。COVID-19 の流行にもかかわらず、肝 Co の活動は維持できていると回答する施設が多かった。**第 3 報**では参加した 27 施設において、現時点では厚生労働省健康局長通知（健発 0425 第 4 号）に記載がない独自の Co 活動を行っていることが明らかになった。今後、これらの好事例を水平展開し、肝 Co の活動の場が広がることが期待される。

A. 研究目的

国が実施する肝炎患者等支援対策事業において、 全国で養成・配置が進められている肝炎医療コーディネーター(肝 Co)には、正しい知識の普及啓発、肝炎ウイルス検査の受検促進、キャリアに対する適切な受診・受療勧奨、肝炎患者やその家族からの相談に対する助言など、様々な役割が期待されている。全国 70 あまりの肝疾患診療連携拠点病院（拠点病院）のうち 17 施設における肝 Co の配置状況を 2019 年度に調査した結果では、現職の肝 Co 数は全体で 480 名であり実働率は 78%であったが、施設により 7.9～100%とばらつきがあった[榎本ら. 肝臓 2021;62:96-98]。2020 年以降は COVID-19 の蔓延によりさまざまな制約が加わることとなり、肝 Co の養成・配置や活動も制約されることが懸念された。

第 2 報では、新たに 4 施設を加え、2021 年度における肝 Co の配置や活動状況について調査し、前回調査からの変化を明らかにした。**第 3 報**では、さらに 6 施設を加え、肝 Co の具体的な活動内容についてもさらに明らかにするため、現在調査が進行中である。

B. 研究方法

第 2 報では、全国 21 拠点病院において 2021 年度現在勤務している肝 Co の現職数、実働数、職種、配属部署等についてアンケート調査を行った。肝炎検査は手術前や入院時スクリーニングとして非肝臓専門の診療科でも広く行われており、特に手術症例数の多い眼科では肝炎ウイルス陽性者も多いことが推測される。配属部署は肝臓内科、それ以外の内科、外科および眼科について調査した。実働の定義は、厚生労働省健康局長通知「肝炎医療コーディネーターの養成及び活用について（健発 0425 第 4 号)」に示されている肝 Co の基本的な役割を含む何らかの活動を実施していることとした。

第 3 報では、2023 年度全国 27 拠点病院において、前回の内容に加えて、肝 Co の具体的な活動内容についてもさらに詳しく調査した。すなわち厚生労働省健康局長通知（健発 0425 第 4 号）以外にも独自に行っている活動の内容を記載お願いした。

C. 研究結果

1. 第 2 報

全 21 拠点病院で肝 Co は合計 951 名が養成され、現職数は 714 名（75.1%）であっ

た。現職肝 Co 数は 9～82 名と施設によってばらつきがあった。実働率は全体で 83.6%であり、9 施設が 100%と回答したが、31.7%と回答する施設もあった（図 1）。

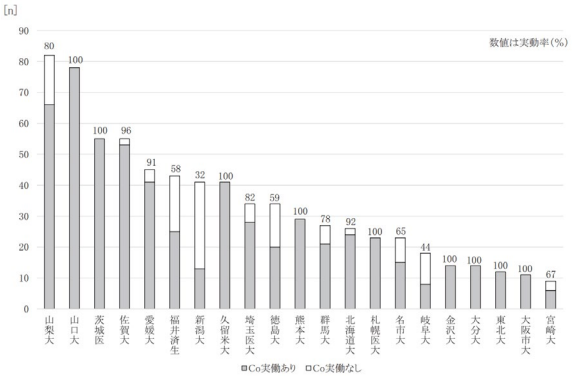

図 1:肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーター現職数と実働率

前回調査にも参加した 17 拠点病院において、全体の実働率は 2019 年度の 84.2%から 85.8%とわずかに増加していた。実働率が低下した 4 施設のうち、岐阜大学は 12.7%低下（57.1%→44.4%）していたが、他の施設は 2%未満の低下であった。増加した 5 施設のうち、宮崎大学では 22.3%（44.4%→66.7%）と最も増加していた。

実働する肝 Co の職種は、2019 年度と同様に看護師が最も多く、臨床検査技師・薬剤師・管理栄養士の順に多かった(図 2)。

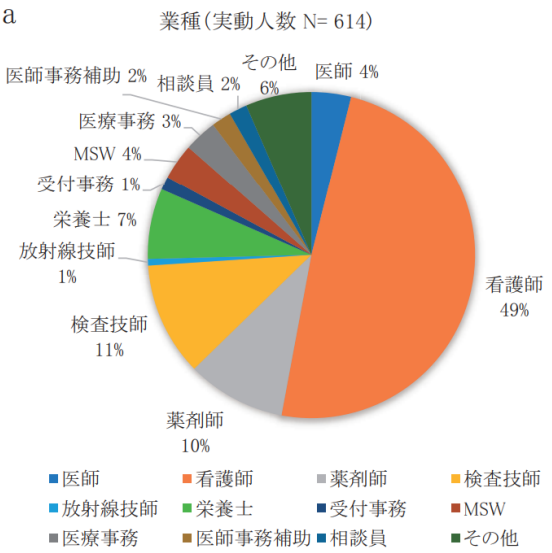

図 2: 実働する肝炎医療コーディネーターの職種

全体におけるそれぞれの職種が占める割合には変化がなかった。眼科で看護師が肝 Co として実働する施設が 2 か所増えていた（図 3）。自由記載欄では「眼科や歯科に配置はしているが、まだ実動はできていない」と回答する施設もあった。

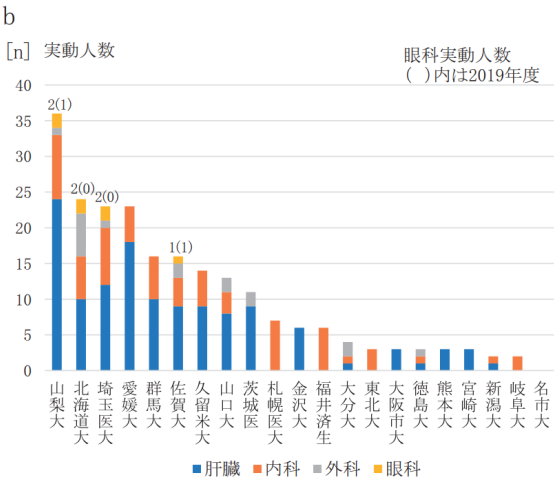

図 3: 肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーター（看護師）の実働数と配置先

2. 第 3 報（中間報告）

2023 年度の全国 27 拠点病院における肝 Co の現職数、実働数、職種、配属部署等については既にアンケートを回収し、現在解析中である。

施設独自に行っている肝 Co の活動内容については自由記載欄に多数の回答が寄せられた（図 3）。具体的には肝炎に関する知識普及・啓発資材作成、陽性者拾い上げ、肝 Co 養成・スキルアップ、HBV 再活性化予防、その他に分類された。

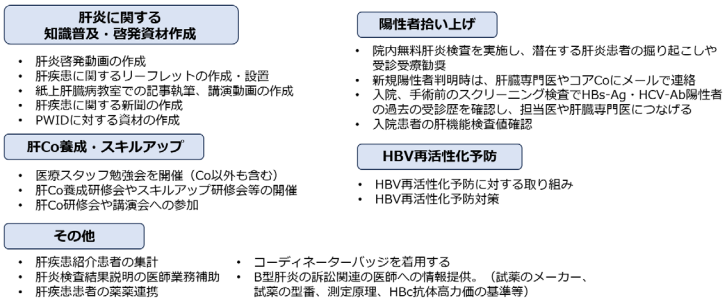

図 3:現時点では通知に記載がない Co 活動

D. 考察

第 2 報では、COVID-19 の蔓延による肝 Co の活動性低下が懸念されたが、ほとんどの拠点病院では維持あるいは増加していた。肝炎情報センターが開催する肝疾患相談・支援センター関係者向け研修会や日本肝臓学会が開催する学術集会のメディカルスタッフセッション等での報告では、多くの拠点病院がウェブ会議システムやマスメディア、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）等を活用して非接触型の啓発イベントや研修会・情報共有を行なっていることが報告されている。また、人数制限やいわゆる３密の回避などの感染対策に十分配慮しながら従来の活動を展開している施設もある。報告された活動内容は、術前検査等で判明した肝炎ウイルス陽性者を非専門の診療科から肝臓専門医への受診につなげる臨床検査技師や看護師の取り組みや、肝臓病教室や料理教室を開催する理学療法士・管理栄養士・薬剤師・医療ソーシャルワーカーなどの取り組みなどであり、全国の拠点病院で多くの職種が互いに連携をとって活躍していることが明らかとなっている。こうした新たな活動に加えて、COVID-19 の感染対策に配慮したインターネットやマスメディアを活用した非接触型の新しい活動方法が広がったことから、コロナ禍においても最低限の活動は維持できていると回答する施設が多かった。

また、眼科で肝 Co が実働していると回答する施設が増えており、実働には至っていないものの眼科や歯科に配置していると回答する施設もあったことから、非専門の診療科への肝 Co 活動の展開が進んできていることが推察された。眼科に肝 Co を配置することで、肝臓内科への紹介率が大きく向上したとする報告もあり、これらのメリットや配置・活動に至るノウハウを全国で共有することで、今後さらに多くの施設で肝 Co の活躍が促進されることが望ましい。

第 3 報では多くの施設で、現時点では厚生労働省健康局長通知（健発 0425 第 4 号）に記載がない独自の Co 活動を行っていることが明らかになった。今後、これらの好事例を通知に加えるなどして水平展開が進めば、全国の肝 Co にさらに活動の場が広がることが期待される。

E. 結論

2021 年度の拠点病院 72 施設のうち、21 施設の肝 Co の現状を調査したところ、合計 951 人の肝 Co が養成されていた。前回調査にも参加した 17 施設では、全体の実働率は 2019年度の84.2%から85.8%と微増していた。COVID-19 の流行にもかかわらず、肝 Co の活動は維持できていると回答する施設が多かった。

F. 政策提言および実務活動

＜政策提言＞

なし

＜研究活動に関連した実務活動＞

研究班活動に加えて、大阪公立大学医学部附属病院肝胆膵内科副部長として、大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課生活習慣病・がん対策グループ(肝炎・肝がん対策担当)と連携し、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。

G. 研究発表

1. 発表論文

1. 磯田広史、榎本大、高橋宏和、大野高嗣、井上泰輔、池上正、井出達也、徳本良雄、 小川浩司、 瀬戸山博子、内田義人、 橋本まさみ、 廣田健一、柿崎暁、 立木佐知子、 井上貴子、遠藤美月、 島上哲朗、 荒生祥尚、井上淳、 末次淳、永田賢治、是永匡紹
肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状(第 2 報)
肝臓(0451-4203)64 巻 10 号
Page510-513(2023.10)

2. 廣田健一、井上貴子、小川浩司、荒生祥尚、遠藤美月、池上正、戸島洋貴、末次淳、柿崎暁、瀬戸山博子、榎本大、是永匡紹　肝炎ウイルス陽性者対策が急がれる非肝臓専門科は? 肝臓64巻11号: 587-589 (0451-4203)64 巻 11 号 Page587-589(2023.11)

3. 井上泰輔、 井出達也、 内田義人、小川浩司、井上貴子、末次淳、 池上正、瀬戸山博子、井上淳、柿崎暁、 榎本大、立木佐知子、 遠藤美月、 永田賢治、是永匡紹　拠点病院以外の肝疾患専門医療機関における院内肝炎ウイルス陽性者対策調査
肝臓 64 巻 12 号: 649-652(0451-4203) 64 巻 12 号 Page649-652 (2023.12)

2.　学会発表

1. 多種職連携による非専門科の陽性者の拾い上げと効率的な個別勧奨の試み
小塚立蔵、 榎本大、 河田則文　肝臓(0451-4203)64巻Suppl.2 Page A634(2023.09)
2. 当院における肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の周知と連携の効果
大槻周平、 榎本大、 武藤芳美、 小田桐直志、 小塚立蔵、 元山宏行、 小谷晃平、 川村悦史、 萩原淳司、 藤井英樹、 打田佐和子、 河田則文
肝 臓 (0451-4203)64 巻 Suppl.1 Page A316(2023.04)
3. 肝疾患におけるチーム医療　肝癌診療におけるチーム医療　薬剤師介入の効果　打田佐和子、 榎本大、 河田則文　肝臓(0451-4203)64巻Suppl.1 Page A221(2023.04)

3.　その他

啓発資材

なし

啓発活動

1. 2023年度大阪府肝炎医療コーディネーター養成研修会　榎本大講演「肝癌診療の進歩」(2023年11月) 配信
2. 大阪公立大学医学部附属病院主催令和5年度第1回肝臓病市民公開講座「帰ってきた！Osaka Liver Festa」榎本大司会(2023年8月5日ハイブリッド)於：あべのハルカス
3. 大阪公立大学医学部附属病院主催令和5年度第2回肝臓病市民公開講座「肝臓病教室」榎本大司会 (2023年12月17日) 於：あべのハルカス
4. 大阪公立大学医学部附属病院 令和5年度一般医療従事者向け肝疾患研修会　榎本大講演「ウイルス性肝炎：eliminationに向けて」(2024年2月) WEB

H.　知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし